

登壇者略歴



アダム・シーガル

Ira A. Lipman 最先端技術・国家安全保障担当議長

米外交問題評議会（CFR）デジタル・サイバースペース政策プログラム
ディレクター

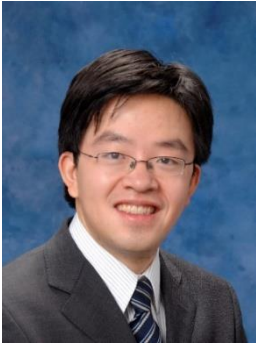
安全保障問題、技術開発、中国の国内・外交政策の専門家。CFR 後援の独立タスクフォースが作成した報告書「[イノベーションと国家安全保障：優位を保ち、オープンでグローバル、安全、かつ回復力のあるインターネットを守るべく (*Innovation and National Security: Keeping Our Edge and Defending an Open, Global, Secure, and Resilient Internet*)」のプロジェクト・ディレクターを務めた。著書「*The Hacked World Order: How Nations Fight, Trade, Maneuver, and Manipulate in the Digital Age* (Public Affairs, 2016)」では、ますます論争が激化するサイバースペースの地政学について分析している。Financial Times、New York Times、Foreign Policy、Wall Street Journal、Foreign Affairs などでも記事を執筆。CFR が開設するブログ "Net Politics" でも意見を発信。



伊藤 信悟

株式会社国際経済研究所 主席研究員

1970 年生まれ、1993 年東京大学法学部卒、1993 年富士総合研究所入社（国際調査部）、2001～2003 年台湾経済研究院副研究員兼務（台北駐在）、2002 年みずほフィナンシャルグループ創設に伴い、みずほ総合研究所に転籍（アジア調査部）、中国室長兼主席研究員等を経て、2018 年 1 月より現職。専門は中国・台湾経済、中台経済関係。主要論文に「サプライチェーンの見直しと中国の新構想－日本に必要な多面的努力」、宮本雄二・伊集院敦・日本経済研究センター編著『米中分断の虚実～デカップリングとサプライチェーンの政治経済分析～』日本経済新聞出版社、2021 年、「半導体産業に対する中国政府の資金面での支援策～ジレンマを抱えつつも一段と強まる支援～」、外務省 外交・安全保障調査研究補助金事業「米中競争による先端技術分野の安全保障化の背景と グローバル経済への影響」、2021 年度エッセイ・シリーズ No.6、2022 年 2 月など。



丁 可

日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所
開発研究センター企業・産業研究グループ
主任研究員

2005 年、名古屋大学大学院経済学研究科博士後期課程終了（経済学博士）。同年、アジア経済研究所に入所。研究支援部、地域研究センター等を経て 2021 年に現職。研究分野は企業・産業研究、グローバル・バリューチェーン、イノベーションシステム、中国経済。代表的な著書に、*Market Platforms, Industrial Clusters and Small Business Dynamics: Specialized Markets in China* (Edward Elgar, Cheltenham and Northampton, 2012) など。



藤原 帰一

東京大学大学院法学政治学研究科教授

東京大学法学部卒業、同大学大学院博士課程単位取得満期退学。フルブライト奨学生としてイェール大学大学院に留学。東京大学社会科学研究所助手を務め、千葉大学法経学部助手、同助教授、東京大学社会科学研究所助教授を経て、1999 年から現職。前東京大学未来ビジョン研究センター長、フィリピン大学アジアセンター客員教授、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究院客員教授、米国ウッドローウィルソン国際学術センター研究員等を歴任。



佐橋 亮

東京大学東洋文化研究所准教授

国際基督教大学卒。東京大学大学院博士課程修了、博士（法学）。オーストラリア国立大学博士研究員、スタンフォード大学客員准教授、神奈川大学教授を経て 2019 年より現職。外務省・科学技術外交推進会議委員、日本国際交流センター客員研究員等を兼ねる。専攻は国際政治学。主著に『米中対立 アメリカの戦略転換と分裂する世界』（中央公論新社）、『共存の模索 アメリカと「2 つの中国」の冷戦史』（勁草書房）。